

国際部会 (平成 22 年度第 1 回) 議事録

日時：平成 22 年 8 月 20 日 (金) 10:45～12:30

場所：愛媛大学

出席者：

時 間	10 : 45 ~ 12 : 30	場 所	愛媛大学 (地盤工学会研究発表会)		
渡 部 部 長	○	勝 見 部 員	○	山 田 部 員	○
西 村 部 員	○	佐 々 部 員	○	棕 木 部 員	○
古 関 部 員	○				

(○印出席, ×印欠席, △印未定, ◎印電子会議出席)

<配布資料>

- 別紙—1 平成 21 年度第 2 回国際部会議事録 (案)
- 別紙—2 平成 22 年度第 1 回運営連絡会議議事録 (案)
- 別紙—3 平成 22 年度第 4 回理事会議題書
- 別紙—4 KGS-JGS Joint Workshop 2010 論文タイトルと参加者リスト
- 別紙—5 日本からの ISSMGE TC メンバー推薦者リスト
- 別紙—6 ISSMGE Foundation
- 別紙—7 ISSMGE president 270 days 300 days reports
- 別紙—8 日韓の地盤工学に関する学術交流について

<議事>

1. 【確認事項】

- 1. 前回議事録の確認
- 2. 議事録担当者→佐々部員

2. 【報告事項】

- 1. 6/25 運営連絡会議議事録, 7/23 理事会議題書【別紙—2】【別紙—3】

The ISSMGE Foundation に国際交流基金会計から 1 万ドルを寄付する旨が報告された.

- 2. 国際会員メーリングリストの送信履歴 (2010.1-2010.8) の確認.

- 3/5 「第4回日中地盤工学シンポジウム」参加者募集のお知らせ
- 3/24 "International Symposium on Testing and Specification of Recycled Materials for Sustainable Geotechnical Construction"開催のお知らせ
- 4/1 「第4回日中地盤工学シンポジウム」参加者募集のお知らせ
- 4/20 "ISSMGE News Bulletin Volume 4 Issue 1 March 2010"発刊のお知らせ
- 7/8 第3回日韓地盤工学ワークショップ（論文募集）-締切り延長
- 7/25 "ISSMGE News Bulletin Volume 6 Issue 1 June 2010"発刊のお知らせ

3. 第3回日韓ワークショップ進捗状況報告

日本側では、10編の論文投稿があった（参加予定者13名）。なお、論文投稿締切を会告の7月5日から7月20日に延期した。 【別紙-4】

4. 第4回 日中ワークショップ開催報告

開催日：2010年4月12～14日、会場：沖縄コンベンションセンター、参加者数：144名（日本側72名、中国側72名）

5. 香港地盤工学会への講師派遣：テーマ「トンネル」（9月22日）

山田部員より3名の講師を派遣する旨の報告がなされた。

6. その他

日本から推薦したTCメンバーの確認。 【別紙-5】

地球温暖化関連のTC-307の名称案について意見が出された。

H22年度新設のTC国内委員会およびATC国内委員会の報告がなされた。

○TC101：Laboratory Stress Strain Strength Testing of Geomaterials 国内委員会

○TC202：Transportation Geotechnics 国内委員会

○TC303：Coastal and River Disaster Mitigation and Rehabilitation 国内委員会

○ATC3：Geotechnology for Natural Hazards 国内委員会

○ATC10：Urban Geo-Informatics 国内委員会

○ATC19：Geotechnical Engineering for Heritage Monuments and Sites in Asia 国内委員会

7. ISSMGE Foundation への寄付について 【別紙-6】

3. 【審議事項】

1. ATC3 国内委員会メンバーについて

新委員として、ハザリカ ヘマンタ氏（九州大学）が承認された。

2. 国際講演会 (Prof. Madhav 9月13日 於:地盤工学会) の開催が承認された。講演料・旅費・資料作成費の取り扱いについて審議がなされた。過去の例に倣い、旅費については支給しないが、講演料と資料作成費を支払う方向で調整することが承認された。当学会における講演が初回である場合には、記念の盾を進呈することを確認した。

3. ISSMGE president 270 days and 300 days reports の報告がなされた。 【別紙-7】

ISSMGE の名称変更案として ISGE を基本的に容認すること、ただし他学会との調整が必要な旨を確認した。

4. 会員増加に関する会長要請に対する国際部の対応について審議がなされた。日本語版の学会誌購読に代えて、web 上で Soils and Foundations にアクセスする権利を与えたり、各種基準類の英語版に web 上でアクセスする権利を与えたりすることが、海外在住の会員の増加策になるのではないかとの意見が出された。海外の情報提供による国内の若手会員の増加策が必要との意見もあった。

5. 国際地盤工学会第 14 回アジア地域会議 (2011.5.23-27, 香港) の提出論文について、チェックシートを作成し国際部員で分担してフォーマットチェックを行うこと、および論文の最終提出期限 9 月 30 日に間に合うように作業を行う旨を確認した。チェックシートは渡部部長が作成する。担当論文の割り当ては事務局に一任する。

6. 今後の国際会議の論文募集、審査方法

国際会議の冊子論文集を止め、CD-ROM 化することにより、日本の割り当て論文数が大幅に増えた。次回フランス会議での論文の募集方法、審査方法について、予め考えておく必要がある。例えば、香港のアジア会議では、160 編の割り当てに対して、98 編の論文を採択した。62 編分の枠は返上したかたちになっている。国際会議論文の審査方法について、今後の部会での審議事項とする旨を確認した。

7. IS-北海道, IS 金沢の開催について進捗状況の報告がなされた。

8. その他

・第 4 回日韓ワークショップの開催予定について

【別紙-8】

現地対応について勝見部員が担当する旨を確認した。

*国際部から提出する理事会の議題 (審議事項, 予備審議事項, 報告事項)

理事会報告事項 ATC3 国内委員会委員 ハザリカ氏